

## 資料1 霊山(りょうぜん)について

霊山プロジェクト 現地代表 大沼 豊

私達が住む霊山(りょうぜん)町は奇岩怪石が織りなす霊山、国指定史跡および県立自然公園に指定されています。清和天皇の勅命を受けた比叡山延暦寺の座主円仁(慈覚大師)が、貞観元年(859)に開山したと伝えられています。それまで不忘山(忘れずの山)と呼ばれていたこの山を、お釈迦様が修行したインドの霊鷲山に(りょうじゅせん)なぞらえて(霊山)と命名しました。山頂には霊山寺が建立され、山王21社が勧請されました。

峰々には大規模な寺院がつくられ、ふもとは3600にも及ぶ僧坊があったといえます。奥州の山岳仏教の一大拠点として長きにわたって隆盛をきわめ、平泉と並ぶ文化の発信基地であったのです。

南北朝時代には、北畠顕家が南朝の義良親王(後の後村上天皇)を奉じて要害の地・霊山に移りました、北畠顕家が国府を開くために宮城県多賀城から霊山城に入城した際に、地元の民が顕家の武運を祈って奉納した剣舞、濫觴の舞(らんじょう)が現在も霊山神社と石田鈴嶽神社にて秋季例大祭で奉納されています。顕家の死後、北朝に攻撃され全山焼き尽くされてしまいました。

また、明治31年に上小国の地に農民の窮乏を改善しようと佐藤忠望先生が、無限責任小国信用組合を設立しました、事実上、日本初の農業組合であり農協発祥の地として記念碑が建てられています。